

同志社の 一貫教育

hitohito-Li

同志社一貫教育探求センター

所長 おおくぼ まさし
大久保 雅史

同志社の一貫教育の魅力を HPで発信

○同志社一貫教育探求センター（以下「センター」という。）は、幼稚園から大学までを擁する総合学園の強みを生かし、同志社らしい教育を探求すべく、

- ・建学の精神の深化
 - ・新たな学びの展開
 - ・同志社のブランド力強化
 - ・法人内情報の共有
 - ・同志社創立150周年記念事業との連携
- などを見据えて、様々な取り組みを検討・展開しています。

これらの取り組みの一つとして、本年4月からセンターのホームページで教職員や卒業生に同志社の一貫教育の魅力を語ってもらう対談動画をアップしています。

直近の企画としては、

同志社女子中学校・高等学校で心と体の大切な成長期を過ごされた卒業生である河本宏子氏（同志社大学文学部卒業、元ANA総合研究所会長）、安久詩乃氏（同志社大学心理学部卒業、株式会社堀場製作所勤務・アーチェリー選手）に在学当時の思い出や現在へつながるエピソード、その後の生き方への影響など、一貫教育から生まれたさまざまなお話を中村久美子同志社女子中学校・高等学校校長が伺いました。

河本氏は一貫教育ならではのメリットについて、「自分の学びのために時間を使うことです。本を読んだり、音楽に親しんだり、スポーツにも打ち込みます。受験を気にせず好きなことに費やす6年間は、振り返れば、人格形成にも大きく影響したように思います。大学進学時には受験をしていないことで知識不足ではないかと不安もありましたが、むしろ自分で自分の時間を使うことで身についた『自



センターホームページ

同志社の一貫教育

分で自分をマネジメントする』スタイルは、大学生から社会人になっても役立ちました」と当時を振り返りながら語られていました。

安久氏からは、「クラスメイトやクラブ活動の仲間との結びつきの深さです。お互いに最もいろいろなことを吸収して成長していく時期を共にした友人です。本当に宝物です。例えば、クラブ活動においては、中学1年生から高校3年生まで年齢の離れた生徒が共に活動します。人数の多いクラブ活動の中でいかに円滑にクラブを運営していくか、その中でどのようにして競技力を向上させていくのか。また、自分のやるべき役割は何か。顧問の先生やコーチ、同級生、ときには卒業したOGの力を借りて、チームの目標に向けた道筋を立てていく力を身につけることができたのではないかと考えています」というお言葉をいただきました。

企業人として、アスリートとして多方面で活躍されているお二人の人格形成のバックボーンには同志社の良心教育を礎とした一貫教育の成果を垣間見ることができ、感動を覚えました。対談は、センターのホームページに掲載しています。今後も引き続き様々な切り口で一貫教育の良さを広報していきますので、ぜひともご覧ください。

【同志社一貫教育探究センターのホームページはこちら】



同志社女子中学校・高等学校 黎明チャペルにて
左：中村校長 中央：河本氏 右：安久氏

